■伊奈忠次　　徳川政権初期の礎を築いた名代官頭。領国の財政基盤の確立し，地方巧者として，以後の手本となった。
いなただつぐ
大内布教許可1550＝　　三河国幡豆郡小島城主伊奈忠基の十一子忠家の長男に生まれる。

大友府内開港1559＝ **9歳：**
桶狭間の戦・1560＝10歳：
早くから徳川家康に仕えたが，

大村純忠受洗1563＝13歳：〈三河一向一揆〉が蜂起し，忠家ら伊奈忠基の子数人が参加，
川中島の戦終1564＝14歳：一揆が平定され，父とともに小島を追放となり，

織田信長入京1568**＝18歳：**

石山合戦始・1570＝20歳：この年，小島城主伊奈忠基討死。
以後，諸国を放浪しながら，民衆の労苦をつぶさに見るとともに，土木技術を身に付け，堺で商家をしていた伯父のもとで，算用勘定にも熟練するうち，
室町幕府滅亡1573＝23歳：

長篠の戦・・1575＝25歳：長篠の戦に際して，父忠家が岡崎信康に馳せ参じて仕えるが，忠次は岡崎城下の土木工事に従事続ける。

安土楽市楽座1577**＝27歳：**

安土教会許可1579＝29歳：織田信長の厳命で信康が自刃させられ，父子ともに堺で商業営む忠次伯父伊奈貞正の食客となる。

本能寺の変・1582＝32歳：**_〈本能寺の変〉で，堺から三河に戻ろうとしていた家康のもとに馳せ参じ，側近小栗吉忠に許されて三河に復帰，小栗の与力衆になると，**
長久手の戦・1584＝34歳：**_秀吉との間の緊張が高まって小栗に命じられた遠江国中泉の陣屋構築を短時日に完成させ，その力量を家康に知られることになり，**
秀吉太政大臣1586**＝36歳：*家康が駿府城に移るに当たって，近習となる。**
以後，農村を中心とした地方の統治に当たり，
刀狩海賊取締1588＝38歳：この頃，野盗の棟梁の首を刎ねて退治するも，家康にたしなめられ，以後，武力行使を断つ。
・・・・・・1589＝39歳：**_徳川氏の五ヵ国領国支配において，検地・知行・年貢制度の改革に活躍。**
秀吉全国統一1590＝40歳：***〈関東移封〉に際しては，江戸城の奉行としてその体裁を整え，武蔵国北足立１万３千石の大名に抜擢されるとともに，短時日に家臣の領国配置を行って秀吉を驚嘆させ，**
文禄の役・・1592＝42歳：**_諸大名の目が海外に向いている間に，利根川付け替えの大工事に着手したのを始め，**
_検地・知行の他，利根川・荒川の改修，新田開発，寺社政策など，関東領国の財政基盤の確立に貢献，
支配領域は関東から東海地方に及び，江戸に役宅を設け，陣屋支配を行った。
関白秀次事件1595**＝45歳：**
26聖人殉教・1596＝46歳：相模国中原に陣屋御殿を造営。

前田利家没・1599＝49歳：従五位下備前守に叙任。
関ヶ原の戦・1600＝50歳：関ヶ原の戦には小荷駄奉行として活躍。
以後，**_家康の領国の再配置に取り組み，代官頭として伝馬制度を確立し，常陸・下野・遠江各国の仕置・書立に奔走，その卓越した灌漑・治水技術により，江戸の後背地関東平野を生産地帯に転換する積極的な役割を果たした。**
糸割符法始・1604**＝54歳：**

江戸城完成・1606＝56歳：***江戸城増改築を指揮するなどしたが，休む間もない激務に疲労と心労が重なって，**
家康駿府退隠1607＝57歳：**_突然失神して倒れた。幸いに回復して，駿府の家康のもとで大御所政治の一翼を担い，**
・・・・・・1608＝58歳：嫡男・忠政が大番頭に任じられて，**_武門の家格に位置付けられ，**
_尾張国総検地を終えてまもなく，
琉球使始・・1610＝60歳：**_没した。**

本間清利「時代を創る伊奈忠次」「家康政権と伊奈忠次」，「人づくり風土記（埼玉）」，「日本史を変えた人物200人」，「没年日本史人物事典」，平凡社百科事典，